

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775004837		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム東大阪加納 (ユニット 太陽)		
所在地	大阪府東大阪市加納1-4-35		
自己評価作成日	平成22年4月5日	評価結果市町村受理日	平成22年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775004837&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特に力を入れていることは、食事です。管理栄養士の作るメニューを味覚・盛り付け・量にこだわり、満足いただける食事を提供することで、利用者様の体調管理はもちろんの事、毎日楽しんでいただける時間につながるよう工夫しています。おやつにも出来る限り手作りを取り入れ、食べることにいつまでも興味と喜びを感じていただけるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームでは、「明元素」というテーマを掲げ、明るく前向きな言葉かけや姿勢を標語として、職員のケアを消極的なものから前向きなものへ発想を替え、利用者の残存能力の発見と支援に向けた取り組みを展開されています。利用者が、僅かでも出来る事を探し、現状打破の支援の中で利用者・職員が共に、楽しく元気に過ごせるよう心がけています。また、5年目を迎へ重度化も進んできましたが、食事専門の職員を配置し利用者の好みや食べやすいように工夫したり、目先を変えて松花堂弁当にするなど食べる事の大切さやおいしさ、喜びを感じられるようにされています。一緒に準備することは難しくなりましたが、調理をする音や匂いを感じてもらうことを大切にいつまでも元気で過ごせるように利用者に合わせておやつや食事を全て手作りで提供しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、全職員が周知し実践に向け日々努力している。	法人の理念とホーム独自の標語があり、玄関や出入り口などに掲示しています。職員の目線でケアの統一が出来るように管理者は法人社長の言葉から取り入れました。元気になれるような前向きな声かけを常に意識することで、利用者に対するケアの意識が変わり実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や医療関係では地域のつながり・利点が生かしているが日常的ではない。	自治会に加入し、年間の行事の情報が入り参加しています。だんじりや獅子舞が玄関まで来てくれ見学を楽しみにしています。また、ボランティアの来訪があり交流に努めています。昨年度は感染症の影響で幼稚園や小学校の見学に行けませんでした。今年度は交流の企画が予定されています。	介護の相談ならホームと、言ってもらえるように考えておられますが、地域の老人会の方などが気軽に訪ねて来てくれるようにホームの行事などに参加を呼び掛けられてはいいでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談はもちろん、認知症やグループホーム自体への理解を深めていただけるよう、問い合わせにはその都度対応。見学も積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月ごとのホーム内の報告がほとんどだが、出席者の方からの質疑応答でご家族様の負担や不安を理解し、利用者様への具体的なサポートをその都度話し合う。 (生活・医療関係)	運営推進会議は、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、近隣の福祉事業所などが参加し、2カ月に1回開催しています。ホームから今後の予定や行事、研修報告などを行い、参加者からの質疑応答をしています。ホーム理解に繋がるようにと次回は、認知症について話をする計画がされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1月に実地指導を終え、改善報告と同時に新たに取り組み始めたこともある。不明な点やホーム内の情報伝達は出来る限り電話や窓口で直接行い指導を受けている。	相談事や何か事があれば電話や直接市役所に出向いています。市が主催となってグループホームのネットワーク作りが始まっており、研修機会があり参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、常に拘束に値しないかをスタッフ間で話し合い、利用者様の中核・周辺症状の変化に留意しながら、全体で対応するよう取り組んでいる。(ユニット間を自由に行き来)	身体拘束の研修は全職員が計画的に受講するようにしており、日常的にも具体的な事例を出して理解に繋がっています。玄関の鍵は施錠していますが、各フロアの入口はセンサーで対応し、外に出かけたい様子を感じたら1階に下りたり一緒に出かけています。家族とは玄関の施錠などについて説明して理解を得ています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護スタッフ間で、他のホームとも合同で虐待についての研修を実施している。		

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶべき内容であるが全職員対象には実施できていない。今後の研修に取り入れ全職員の理解が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見があれば直ぐ検討し実施に向け工夫している。例えば、マッサージや灸治療などを要望される利用者様やご家族に対しては地域の診療所を利用できるようにした。	法人によるアンケートが年1回あり、結果や改善策を掲示するとともに家族宛にも送付しています。多くの家族の来訪があり、家族会や運営推進会議にも多くの出席があり意見や要望を聞く機会となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に各ユニットで行われる会議やカンファレンスの内容は現場で直接耳に入るよう、コミュニケーションをとっている。	月々の会議において、思ったことはお互いに伝え検討するようにしています。職員は毎月自己評価を行いケアに対する意見を提案し年に一度管理者が面談し、新任職員は毎月面談を行いケアの向上に繋がるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年4月～半年間で達成できるカリキュラムを作成し、指導にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会合や研修には出来る限りホーム内の役割に関わらず、関係するものが優先的に参加できるよう指示。ホームへ持ち帰り実践を目指している。		

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は精神的支えを一番に、不安や要望を出来るだけ聞き取るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前は特にご家族からの相談には時間を確保し、その要望を引き出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム内で出来る限りのサービスの提供・支援を心がけ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けている方と、まだまだ思考錯誤が続く方が半数。共に支えあえる関係・環境を目指し心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆は特に大切な考え、関係を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある人や場所の交流・環境は出来る限り関係が継続できるようご家族様にも協力いただきながら支援している。	近隣からの利用者が多く、近所の方や知り合いの方の来訪があったり、今までのかかりつけ医に通院し、同級生に出会うなど、昔馴染みの方々に出会える機会を見つけ支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係は職員が上手く介入することで支えあえる雰囲気をつくり、またトラブルが回避できるよう努めている。		

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話やしぐさを観察し出来る限り想像し、希望を引き出せるよう努めている。ご家族様へ情報をいただくことも多い。	ホーム独自のアセスメントを使用し、利用者や家族から多くの情報を得るとともに、リーダー担当者の気づきを記録に残し検討しています。困難な場合も、会話や表情を見逃さず記録に書き留め職員で共有し利用者の支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の生活歴やサービスの利用については、出来る限り情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の申し送りや介護記録・モニタリングから現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者会議やカンファレンスの中で個別に検討し、ご家族へも出来る限りの相談・提案の中から協力いただき作成している。	3ヶ月に一度ケアプランの見直しを行っています。1週間、1か月ごとにモニタリングや評価を職員、看護師の記録を基に行っています。家族の来訪時に介護記録を見てもらい見直しに繋げています。また、必要があれば医師の意見も取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングで個別の様子や実施状況を記録し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズを聞き取り実践できるよう、ホーム内・外で対応できる環境づくりの構築に取り組んでいる。		

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握を現在行っているところ。地域の様々な情報も活用しながら、利用者様が社会生活を継続できる支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切に医療を受けられるよう支援している。	今までのかかりつけ医を継続できることを伝え、本人や家族の希望に沿った受診を支援しています。職員でもある看護師が日々の健康管理を行っています。また、協力医の往診が2週間に1度あり、何かあれば24時間電話で指示がもらえるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で得た情報や気づきは看護職員へも共有し適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、出来る限りご家族のサポートを行い相談はもちろん情報の提供に努めている。受け入れが困難な状態でも、出来る限り受け入れ可能な病院を探し対応している。(医療連携室へ相談)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入居相談や契約時に説明を行い、その後状況が変化するたび事業所の出来ることを説明し、ご家族に協力いただきながら出来る限り地域で支えられるよう取り組んでいる。	入居時にホームの重度化に対する指針を説明しています。重度化していく中では、家族に管理者やリーダー、看護師を交えて話し合い予測される事などを伝え、どのように対応していくかを検討しています。利用者ごとの緊急マニュアルを作り、全体会議で話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや対応法については、事あるごとにカンファレンスや会議でも周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災対策については避難体制は出来ているが、地震・水害については課題がある。(人員人数・安全な場所の確保)	年に2回ホーム独自で昼夜想定で避難訓練をしています。警報機を使い避難経路の確認や避難時間の確認などを行っています。また、近隣に住んでいる職員やホームのオーナー等が自衛消防団を組み体制を整えています。	

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけと対応をしている。	支援に当っては利用者の立場に立つ事を基本と考え、会話や対応が出来るように心がけています。不適切な発言があれば、管理者はその都度注意しています。プライバシーについての研修は、新任の研修に引き続き現任研修を予定しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面を出来るだけ作れるよう工夫し働きかけるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合は優先せず、個々のペースを尊重した生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様との準備や片付けは職員が行うことが多いが、出来ることは環境や条件を整えお願いしている。	食事が中心に一日があると考え、一番の楽しみ事と位置付けています。重度化が進み、一緒に作ることは難しくなってきましたが、下膳など出来る事を一緒にしています。調理専門の職員がおやつに至るまですべて手作りで、時には松花堂弁当を作るなど楽しみになっています。また職員も同じテーブルに着き同じ物を頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。		

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態は常に変化しているが観察や状態把握に努め、維持・向上できるように試行錯誤をしながら支援を行っている。	オムツからリハビリパンツに替えるなど改善への工夫を行っています。排泄チェック表を利用しながら、誘導や声かけをしてトイレで排泄が出来るように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医・看護師へ相談・報告を繰り返しながら、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清潔の保持・身体状況の把握も含め、個々の体長に合わせ、週2～3回は最低入浴いただけるよう支援している。	出来るだけ利用者の希望する時間に入浴してもらい、週に2～3回は入れるようにしています。午後1時30分から4時30分頃まで、毎日準備しています。入浴剤やヨモギ、キンカン等を入れ楽しく入れるように工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の観察・報告に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援できるよう心がけ工夫している。	希望を聞き、天気のいい日には出来るだけ散歩やドライブに出かけるようにしています。重度化が進んできた中で、外出が難しい利用者には、庭やベランダでお茶の時間を過ごしたり日向ぼっこなど外気浴をこまめにしています。また、遠出には弁当を作り出かけています。	

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるような工夫はまだ取り入れられることがたくさんある。今後も工夫し改善を行う。	広く明るいリビングは、何処にいてもゆったりとして寛げる空間があります。廊下も広く手すりを取り付け手押し車を使っても歩行訓練が出来るようになっていきます。また、リビングに続く庭では季節の野菜を植え食卓に添えられる楽しみもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しご家族様にも協力を依頼することもある。	タンスが備え付けられており、今まで使っていた机や椅子、ソファー、鏡台、ベッドなどを家族と相談しながら持ってきてもらっています。今まで布団で休まれていた方は畳での生活をされたり、書斎の様に整備される方など自由で多彩です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりに努め、その中で個々が自立を意識した生活が送れるよう工夫している。		